THE ROTARY CLUB OF YAMATO－NAKA

大和中ロータリークラブ会報

ROTARY BRINGS HOPE ロータリーは希望をもたらす

1986～'87 R.I 会 長 M.A.T. カバラス

藤田会長 クラブターゲット 楽しく集う ロータリー

第409回 例会 61年8月21日 第415号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
49名	42名	85.71％	100％

欠席者（7名）
古郡、橋本、木村、熊倉、高橋、辻、山中

本日のプログラム	8月28日
清水洋三君 「悟りくさき話」	
次週予定	9月4日
クラブフォーラム	

司会 SAA 近藤富士男君
ソングリーダー 前原一男君「それでこそロータリー」

ゲスト

真崎 勇 直前第11分区代理

ビジター

松元文治君 井上紀和君（横浜瀬谷）
北原敬二君 藪内宏雄君 山口光洋君
三瓶洋爾君 黒田忠男君（大和）
福田武辯君 濱畑勝彦君 川島教男君
山地旦士君（大和田園）

≪会長報告≫

我々の姉妹クラブ東慶州ロータリークラブの安林洙会長より就任挨拶の便りが参りましたので回覧致します。

先週14、15の両日は、皆様本当にご苦労様でございました。我々に取って大事な仲間、同志でもある、種ケ島実会員が亡くなられて、其の葬儀に関する一切を取り仕切って頂けないでしょうか。と彼の奥様とお嬢様から要請がございました。

その時の様子から私共は、奥様とお嬢様が、途方に暮れているところと推察致しまして、これをお受けすることに相成った訳でございます。14日木曜日の例会で、皆様にご相談申し上げ、其の夜7時から草柳極楽寺に於いてお通夜、そして15日は告別式、大和市の斎場に於ける茶毗、そして初七

1．真実かどうか
2．みんなに公平か
3．好意と友情を深めるか
4．みんなのためになるかどうか

事務所：大和市中央1－5－40
大和市商工会館内
☎0462－63－7926
例会場：大和市大和南1－4－4
八千代信用金庫大和支店4階
☎0462－64－3654

例会日：毎週木曜日12時30分より
会長：藤田重成
会長エレクト：富沢重徳
副会長：有沢昭二
幹事：土屋翁三
会報委員：二見・前原・小林

日等、これに伴う受付、案内、接待、その他の諸事一切を、我がクラブ会員一同により、手分け分担し、更に有志会員のご夫人方の応援を得て、無事完了させたのでございます。彼のご冥福を祈る一途なロータリーの友人としての気持が、親睦及び友情を具体的に実践されたと言うことで、我々大和中ロータリークラブの歴史の一頁として特記出来る事例であろうかと私は思います。

なかでも寺田会員の感動的な弔辞は参列者の涙をさそいました。彼の御骨を抱いてご自宅迄お帰りになった、奥様とお嬢様は悲しみの一夜を明かされた翌朝、私の家に電話ではございますが、「本当に有難うございました。ロータリークラブの皆様のお蔭でございます。皆様方に呉々もよろしくお伝え下さい。その内、新ためて、お礼にお伺いさせて頂きます。」と申しておられました。

本日直前第11分区代理の真崎勇様がお見えですので一言ご挨拶をお願い致します。

皆さんお暑うございます。只今ご紹介頂きました座間クラブの真崎でございます。昨年７月以来第11分区代理を拝命致しまして皆様方のご協力の基に大過なく務めさせて頂くことができました。有難うございました。本来ですともっと早くご挨拶に伺うべきところでしたが、昨年度の上野ガバナー他加藤カウンセラー、鹿島拡大委員長等より、第11分区に新クラブ設立の話しがあり、斉藤特別代表にお願いし難産の末、座間に新クラブを結成するに至りました。６月29日創立総会を開き、その席上で上田直前会長さんには激励のお言葉を頂き有難うございました。７月に入りましてから、特別代表よりエイドを依頼され現在に至りました例会日が木曜日でございますので今日まで延々になりました。申し訳けございませんでした。

24名で発足しまして横浜銀行座間支店２階にて、例会が行なわれています。どうぞ皆様お出掛け頂きまして励ましのお言葉をかけて頂きたいと思います。手塚会長も近いうちにご挨拶に伺うと申しておりましたのでよろしくお願いします。本日はどうも有難うございました。

≪幹事報告≫

先週の定例理事、役員会で例会日の変更が承認されました。後日プログラム委員会より印刷された予定表を配布致します。

10週年行事について、記念行事を行うことを決定準備委員会発足にあたり、富沢会長エレクト、高橋副幹事に格子案作成を依頼いたしました。

故種ケ島会員に対する会員拠金１万円未納の方納めて下さい。

お祝　おめでとうございます！

８年皆出席　富沢重徳君

入会記念日　古川　巌君　（57年８月26日）

　　菊地康公君　（57年８月26日）

≪スマイルボックス≫　委員長　後藤定毅

真崎　勇君（座間）　昨年７月１日分区代理拝命以来皆様のあたゝかい御協力によりまして大過なく責めを果すことが出来ました。御挨拶おくれて申し訳ございませんでした。

松元文治君（瀬谷）　お世話になります。

井上紀和君（瀬谷）　お暑うございます。今日はお世話になります。よろしくお願い致します。

藪内宏雄君（大和）御暑うございます。しばらく

振りでお伺い致しました宜しく。

三瓶洋爾君（大和）　本日はお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

黒田忠男君（大和）　本日もお世話になります。

山口光洋君（大和）　お暑うございます。よろしくお願い致します。

川島教男君（大和田園）　本日はお世話になります。

浜畑勝彦君（大和田園）　今日はお世話になります。

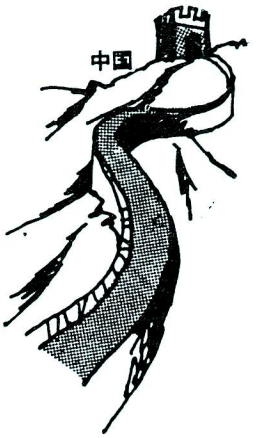
福田武辯君（大和田園）　毎度お世話になります。今後共宜しくお願いします。

山地旦士君（大和田園）　本日はお世話になります。

菊地康公君　入会以来倒産しそうでしないので、ズルズルと続いております。今後共御支援よろしく。

中西　功君　いつまで続けられるか、自信のないまゝ何年か過ぎました。これからも自信なく続けていく事になると思いますが、肩の力をぬいて気楽にいきたいと思います。

古川　巌君　４年目の入会記念日が来ました、あと一年は頑張りますのでよろしくお願い致します。（昔は石の上にも３年といっていたがゝゝ）



≪卓　話≫

シルクロードの旅

寺田伍六君

「ほんとに、シルクロードへ行ったの」「大変だったね」、「良く出かけたね」「食べものはどうだった」「ホテルは、……」皆さんからこの様に問い返されます。

私が参加した西域旅行は女性２名が加わった11名のメンバーでしたが、４月末から５月初旬までの15日間を空路12500㎞ 列車、バス2500㎞と合せて15000 ㎞　の長旅でした。此の間を全行程同行した通訳と西域宛内専門の通訳との２名が同行してくれましたので、安心して身を任せることが出来ました。亦ホテルは整っておりましたし食事は１００％の中国料理でしたが、全てが清潔であり、西域の人々は純朴な人達ばかりで、ほんとうに気持ちの良い旅行を楽しむことが出来ました。唯ホテルは設備においてシャワー、水洗トイレ等の水と湯の事でトラブルが多く亦スリッパやえもんかけが用意されて無かったりして細かい点は多少有りますが、西域の人々の生活を想像しますと、勿体ない位いの大名旅行だったと思います。

さて早朝大和を発った我々は昼すぎには上海に到着、大陸に第一歩を足し早々市街見物と出かけました。戦前も立派な都市でしたが黄浦江に沿う共同租界の街並みは昔も今も少しも変わらず、大変懐かしい影観でした。

翌朝上海を発ったジェット機は、ソ連製のイリューシンで、その塔乗口が貨物口かと思う程の粗末さにドッキリ、中に入ってみたら国民服のようなスチュワーデスさんが、笑顔でシートに案内してくれました。先づ先づ安心した次第。然し乍ら

エンジンはとても快調、廻りを見渡した処、ギッシリの満席です。これでは大変だなと想像され、中国の航空事情が察せられた次第です。機はやがてモンゴル共和国との国境に連らなる白雪のアルタイ山脈を遠望し、眼下にゴビ砂漠を眺めながら５時間の飛行を終えて新疆ウイグル自治区の首都ウルムチ空港に無事着陸いたしました。滑走路にトルコ航空機が止まっているのを見るを、国際空港と思われますが、待合室には食堂売店など見当らず簡素なものでした。此処でウイグル語の通訳が加わって１時間程離れた町へと伺いました。沿道は見渡す限り茫々とした砂利だらけの大地で、木も無ければ草も生えていない乾ききった河原です。これはスゴイと謂うか、酷いと謂うのか、大変な処です。そこでこのゴビと謂う語源ですが、それはウイグル語で砂利と砂だけ、何も無い。という意味だそうで、私が考えていたゴビとゆう名称の砂漠とは大違いでした。映画で見る様な砂漠をラクダが行き交う風景とばかり想像して居りましたのに、此の広大な面域の大部分はゴビだったのです。日本の２倍もある何処までも続く乾いた大地、然し此処には良質な砂利と砂、玉石が埋め尽くされております。無尽蔵と云う言葉がこれです。

ウイグル自治区の首都ウルムチは人口が９０万人で、近代都市を目指した都市造りの最中のようでした。西域の人口は1100万人、面積が日本の４倍で中国全土の17％を占める、広大な自治区であります。段処に住む人々はウイグル族が４０％で、他はキルギス族、チベット族、漢族、ハザク族など13の種族に分布されております。草を求め移動する遊牧民、オアシスで農耕に定住する農民この二つの生活が何千年にも亘って続いております。それぞれの民族は生活様式が異なり、習慣も制度も異なっている様です。中でもウイグル族はトルコ系でしようか、男は彫りの深い顔立ちの偉丈夫が目立ち、女性は青い瞳、茶色の瞳、素晴らしい美人ぞろいです。私達の青年通訳（漢民族）全者に、あんな娘と結婚したらと問いかけました処、彼曰くダメなんです。イスラムですし習慣が違います。家族ぐるみ大変なんです。こんな返事が帰って来て、ままならぬ西域だ、と思ったりしました。

翌朝はウルムチを発って1500㎞離れたカシュガルへ飛んだ。眼前に天山山脈、眼下にタクラマカン砂漠、8000ｍ級の山々は銀色に輝き、コバルト色に澄み切った空、山々はカラコルム山脈、ヒマラヤ山脈と続く雄大な景観である。私はこの果てしなく続く山脈を遠望するうちに、仏教が中国に伝来したのが紀元の頃だろうという説を思い浮かべた。都西安から天笠までの道のりは遠く、５００㎞もあるのだ。亦どの様にして此の山を越えたのか、水のないゴビを渡って、到底人間の業では考えられない苦難の道のりである。三蔵法師が18年間もかけた、この道。

機内での２時間が終り、私達はシルクロードの終着点、そして天山南路の果て、カシュガルに着陸した。飛天の如くに砂礫の河原ゴビを４０００㎞も飛んで到着した町だ。標高は 1600ｍの高地で、緑に映えるポプラ並木に囲まれた、のどかな此のオアシスはウイグル人の町であり、イスラムの都市だ。

街の中心は中東風の建物が並び、円屋根に尖塔、そして幾何学的な絞様のタイル張りが、色とりど

りきらびやかに輝くそれは、寺院かモスクであろうが、エキゾチックで、惹かれるものが町いっぱいに漲ぎっている。中国であって中国ではない。この感じは当の中国人もそう考えて居るらしく、自治区という行政によって、13民族の自主性が守られているのがこの西域だ。それだけに、どの人の顔もくったくが無く、互いに理解し合っているのだろう。とても和やかで、楽しい賑いである。そして素朴な自由が漲った、カシュガルだ。

私達のホテルは、閉鎖されたソビエトの領事館だそうで、一寸変った雰囲気だ。この町は9万人の人口だそうだが、子供でいっぱいだ。愛想がよくて人なつこい連中で、めづらしい我々は何処でも取り囲まれる。歌が好きで、踊りが大好き、可愛いゝ子供達が元気に育っている。

翌朝はパキスタンに伺い、300 km先のパシール高原を目指すことゝなった。このパミールは標高が4000mもあって、気温は－15度位いの寒さとの話であり、バスには毛布が積み込まれ、食糧も積み込んで。

町を外れた農村の風景は、白く塗った日乾しレンガの土塀が整然と並び、道巾は10m位いもあろうか。ポプラ並木が良く手入れされて、砂利道だが立派な国道である。8時間の行程だがバスは快調で、行き交う自動車などは全く見当らない。大きな荷物を背にしたラクダの列を追い越しながら、5時間位い進んだ頃、黄河の源旅を渡る橋まで到達した。清らかな清流である。この近くには道路整備の駐屯所の宿舎と検問ゲートとが、広い谷間に一つ在るだけで、他には何もない静けさだ。

顔前には氷壁に輝く山々が林立し、大気の清らかさが身にしみる。車は谷間を走り続けるうちに、目前が広く開けて来た。附近は雪片が点在する中で、大きな湖が遠望されるようになって来た。そして真黒いヤクの影、羊の群れが遠く点々と眺められるようになって来た。

8時間の行程の末、遂にパミール高原まで私達は来たのだ。そして4000m の高地に立って、8000m の山々を展望しているのである。この高原は石と砂利だらけに氷雪を残す、春には未だ遠いのであろうか、緑が全く無い。ただ私達が始めて見たアルカリの湖のほとりや山裾には、群がる羊、ヤク、ラクダたちが無心に大地を舐めまわしている。草が無い此の高原で、動物達は何を食べて生きているのだろうか、全く思議である。私の立っている足もとには、葉の無い白らっ茶けた、トゲだらけの枯れた様な草の株が在るばかりで、これとても食べられそうも無い。

大自然は私達に、再び接することの出来ない様な、美くしい景観を与えてくれたのだが、それに反し生きる動物たちの、きびしい現実にも引き合わせてくれたのである。

帰路に入った道の崖上に、原色豊かな服装をした婦人らしい姿を私は発見した。此処には包(パウ)があると判断した私は、車を制止して、行ってみようと、持てるだけの食べ物や、成田空港の特級酒まで、かゝえ込んで駈け上った。思った通り包(パウ)が二つ建ち、着飾った婦人や子供が数人居た。彼女たちはビックリした様子だったが、善意の訪門者である私を喜んで受け入れてくれた。こんな処に良く住んで居ますねという私の思いが通じたのか、安心して包(パウ)の中も見せてくれた。そしてプレゼントの日本酒、パン、玉子などが大変嬉しかった様である。それにしても、何も無い、人も居ない、

こんな処に2家族だけで、よくも暮しているものと、私には想像のつかないことである。包の中には、中国で一度も目にした事のない子猫が一匹、どうもヒマラヤンらしいのだが、逃げられてしまって触れることは出来なかった。ラクダもヤクも羊も家族の一員である様で、この厳しい大自然の中を替んな寄りそって生命を互いに支え合って居るように思えてならない。

近代文明と社会に慣れきった私には、この人達の境遇の儚なさが思いやられ、気の毒でならない。然し物質に追い廻わされて、アクセクと自然の姿も忘れた私達社会人の、生き様の方が余程、みじめな人生なのかも知れないと思ったりする。西域の大地は乾き切っているが、私達の周りの社会は乾いて居ないだろうか。ロータリーこそオアシスであって欲しい。

ロータリー情報

会長の要望

カパラス会長は、会長賞プログラムの一環として、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕のいずれかで少なくとも一つの新奉仕プロジェクトを始めるようロータリー・クラブに要請しています。難しすぎるということはないでしょう。ですから、カパラス会長を失望させないで下さい。会長は知っています。奉仕によって初めて「**ロータリーは希望をもたらす**」ということを。

名称に込められているもの

私達のクラブがロータリーと呼ばれていず、あなたの氏名で結成されたとしたら、あなたは今以上クラブのために尽くしますか？　新会員を見つけるのに今まで以上努力しますか？　地域社会においてクラブの名を恥ずかしめないよう今まで以上心を配りますか？　今まで以上奉仕を目ざしますか？　出席率が向上しますか？

必要なのが名称の変更だけなら、多分、あなたの名前をロータリーに変えるべきです。そのほうがはるかに簡単です。

完全無欠の地域社会

改めることは何もない、というような完全無欠な地域社会を考えてみましょう。事故も犯罪も、飢餓もニーズもない、汚れなき地域であります。雑草一つない、一片の心配もいらない地域であります。

今度は、そのような地域のロータリー・クラブを思い浮かべてみましょう。することは何もなく毎週毎週ただ坐しているだけです。さあ、空想はこれくらいにして、仕事にとりかかりましょう！

青少年への奉仕
その利己的理由三つ

1. 青少年に奉仕すると、ロータリアンは、自分の住む社会や地域の性格の変化に足並みをそろえることができます。
2. 青少年との関係が深まると、クラブ会員は、地域社会に溶け込むことができます。
3. 若い人と協調していくと、ロータリアンは、いつまでも柔軟性に富み、希望に満ちあふれていられます。柔軟性と希望という二つの大切な資質は、青少年とロータリーが出会い、力を合わせると必ず得られるものであります。